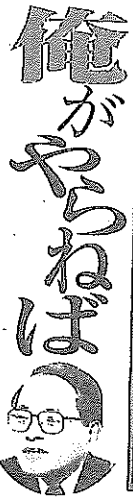


永田町新潮流 平沢勝栄



日米の絆深まり

今月30日に天皇陛下は御退位され、5月1日に皇太子殿下が新天皇として御即位される。

ところで、私は今から40年ほど前、皇宮警察に勤務した。その時は毎日のように両陛下(現在の両陛下)のお車に同乗して各所に同行したが、車中では両陛下からさまざまな下問を頂くことがあった。答えに窮したこともしばしばで、今考えると汗顔の至りである。

両陛下は、ご訪問地では国民との触れ合いや交流を求め、ど

三た市民天
参りさる振
宮入りのを
神重入迎を
伊勢重出に
県入迎に手
重入迎に手
二皇皇手
一后后手
日、后手
同皇手
伊勢市(代表撮影)



なたにも優しくお声をかけられていた。
国民と身近に接したいという
両陛下のお気持ちもよく、警
備は可能な限りソフトにしたこ
う。

とを覚えている。
殿下はお車の中はもちろんで
列車の中でもくつがれること
はほとんどなかったように思
う。

例えば、岐阜県高山市から列車でお帰りになられた1976(昭和51)年の時には、高山線沿線には両陛下に手を振る農作業中の人が絶えなかった。

その間、殿下は約2時間におたり、列車内でお立ちのまま、手を振り続けられたのである。こんなこともあった。

葉山の御用邸近くの海岸を散歩の時に、流れ着いたゴミが散乱していたことから、両陛下はゴミ掃除を始めた。

お供の私たちが、慌ててそのゴミ掃除に加わったことは言うまでもない。
ところで、皇室の有り難さをとりわけ強く感じたのは、外国

ご訪問時である。
私は1975(昭和50)年の昭和天皇皇后両陛下のご訪米や、1994(平成6)年の天皇皇后両陛下のご訪米などに同行した。

そして、皇室の海外ご訪問が、いかに外国との友好親善を深める上で大きな役割を果たしているかを、肌で感じてきた。

昭和天皇ご訪米時には、まだアメリカ人には戦争の記憶が残っていたことから、とりわけ警備が心配された。しかし、どこに行かれても、両陛下を一目見たいという歓迎の人で鈴なりだった。

両陛下のお人柄がアメリカ人を完全に魅了したわけで、このことは1994(平成6)年の両陛下ご訪米時も同じだった。両陛下ご訪米で、アメリカ人の日本に対する誤解は吹っ飛び、日米両国の絆は一段と強まったのである。

両陛下には長い間、本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございます。

いよいよ5月から「令和」の時代が始まる。私たちは皇室のある日本に生を受けたことを誇りに思い、そして、その皇室を柱に、さらに平和で繁栄する日本を創っていきたくと思う。

(自民党衆議院議員)

両陛下のお人柄がアメリカ人を魅了